

ズーノーシス (人獣共通感染症)

ズーノーシス(人獣共通感染症)のリスクはとても身近にあります。例えば皆さんが愛犬・愛猫のために行っている、ノミやダニの対策。愛犬・愛猫に住みついているノミやダニが飼い主さんをさすこともあるわけです。

ペットとよりよい生活をすごすためには、ペットを介して感染する可能性のある病気を未然に防ぐ必要があります。ペットの健康、ヒトの健康を守る方法を知って家族みんなが楽しめる家にしましょう！

ズーノーシス予防は法律で飼い主さんの責任になっています。



ズーノーシスの予防は 2006 年 6 月 1 日に改正・施行された動物愛護法で「(飼い主さんは)動物に起因する感染症(ズーノーシス)の予防のために必要な注意を払うこと」と定められ、ズーノーシスのケアは飼い主さんの責務であることが明確になりました。

ヒトとペットとの間で起こり得る不幸なズーノーシス感染を避けるためにも、ズーノーシスの正しい知識を持ち、日頃から適切なケアを行うようにしましょう。

ズーノーシスは動物と人との間で自然に移行する感染症です。原因がペットというわけではありませんが、ペットについている細菌や寄生虫が人間の体内に入り、病気になってしまうことです。

「幼虫移行症」

例えばワンちゃんの体内にいる『イヌ回虫』やネコちゃんの体内にいる『ネコ回虫』はワンちゃんやネコちゃんにいるときにはさほど問題が起きません(しかし、幼犬に多数の成虫が寄生した場合は、腹部の異常膨大、呼吸の特異的甘臭、異嗜、元気消失、発育不良、削瘦、貧血、皮膚弛緩、被毛粗剛、食欲不振、便秘、下痢、腹痛、嘔吐を起こします。また体内に幼虫が寄生している雌イヌが妊娠すると、胎盤や乳汁などを通して子イヌに感染します)。

その『イヌ回虫』や『ネコ回虫』がヒトの体内に入ると、回虫は成虫になれずに体内を移行して内臓や眼に入り、幼虫移行症と呼ばれるさまざまな障害を引き起こします。

この回虫がワンちゃんやネコちゃんよりヒトにうつる経緯は過剰なスキンシップ(キスや食べ物の口移し)や、ふん便からになります。

「ネコひっかき病」

ネコひっかき病はその名の通り、ネコに咬まれたりひっかかれたりした後に発症するズーノーシス。しかし実際はネコだけでなく、イヌによる咬傷やノミに刺されることによっても感染するので注意が必要です。感染すると、数日から2週間ほどの潜伏期間のあと、発熱、疼痛、リンパ節の腫脹が現れます。まれに脳症を起こすこともあるので、心当たりがあれば放置せず、ちゃんと病院(人の)で見てもらってください。

「レプトスピラ病」

レプトスピラ病を起こす原因となる細菌は「カニコーラ型」と「ワイル型」の2種類に分かれます。この細菌は尿で汚染された水により増殖します。その汚染水を直接飲んだり触ったりすることで感染するため、野生動物の間での感染は容易です。実際には百数十種類以上の野生動物が外見上健康であるにも関わらずレプトスピラ菌を持っているといわれています。また、レプトスピラ病は季節に関係なく発生し、オスはメスより感染率が3~5倍高いともいわれています。最も多い感染方法は、レプトスピラ病に感染したネズミ、犬、家畜などの尿を介して、人間やほかの動物に感染してしまうケースです。感染した動物の尿中には大量のレプトスピラ菌が排泄されます。その尿が口に入ったり、直接触ったりすることでレプトスピラ病に感染しますが、皮膚に傷口などがある場合はさらに簡単に菌が侵入してしまいます。特にネズミが感染した場合はその症状がわからず、見かけ上はまったく健康体に見えるのでいっそう危険です。そして体内に侵入したレプトスピラ菌は血液により全身に広がり増殖していき、肝臓や腎臓を侵していくのです。